

総合人文科学研究センター研究部門  
現代社会における「想像力」の総合的研究

## 2018年度第2回研究会の報告

日時：2018年6月22日（金）18時30分から20時30分

会場：戸山キャンパス33号館16階、第10会議室

このたびの「想像力」研究2018年度第2回研究会は公開で開催し、部門構成員を含む12名の参加者を得た。今回は、沖清豪先生（本学教授）が話題提供を行った。

本報告は教職課程関連科目の担当者でもある報告者が現在の学校教員をめぐる種々の危機を踏まえて、現場で必要とされている想像力の類型化を試みるとともに、それらが果たして現在の人文系学部でどのように取り扱われうるのかについて、ディプロマ・ポリシー等の記載内容等から検討するものとなった。その延長上に、事例を紹介しつつ人文学に内在される想像力をめぐる議論の明確化を試み、教育学的想像力をめぐる課題を明らかにするものとなった。具体的には、いじめ等への対応に基づく他者に対する想像力、児童生徒のみならず教師自身に関する生命に対する想像力、および進路指導・キャリア支援という観点からみた生徒の将来に対する想像力の必要性が報告された。

報告後の質疑応答では一時間以上にわたり、想像力を育むものとしての読書の重要性に関する議論や隠れたカリキュラムとしての読書経験の重要性、大学教員の研究テーマの蝸壺化に伴う読書の範囲の縮減状況、あるいは人文学系の学部においては想像力が当然のものとして認識されているがゆえに言語化されない状況等、多岐にわたる論点が提示され、議論が交わされた。（沖清豪先生記）

次回の研究会は、10月末までのあいだで、可能な限り多くの参加者を得られる時間を探し、開催する予定である。（報告取りまとめ：御子柴）